

施工段階		下地・間仕切り		6	設備工事： 間仕切り内配管	シート番号 6-3			
電気	空調	衛生	その他						
○	○	○	—						

ポイント

■間仕切り内の電線管は固定

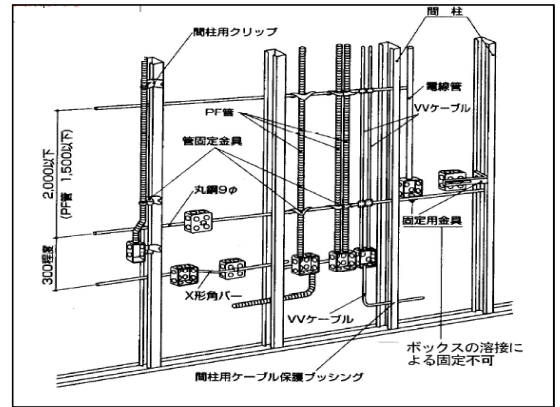
- ・ボックス類はスタッドを介して堅固に取付けます。
また電線管もきちんと固定します。
- ・ボックスを背中合せに取付ける事は避けます。（音が漏れる）
- ・ケーブル配線をする場合は、スタッドの貫通部にはブッシングを設置しケーブルを保護します。

■防火区画の確認

- ・間仕切り壁が区画壁か、事前に確認し施工図に反映します。
認定工法通りに施工する必要があります。

■間仕切り壁と衛生設備

- ・間仕切り壁に洗面器など設置する場合は、堅固に補強するためには、補強板などが必要になります。
建築担当者と事前に打合せし軽量下地補強やベニヤ板の設置を行うようにします。
- ・洗面器などの衛生配管を行う場合は、間仕切りの中で納まるか、ライニングが必要なのか確認します。
ライニングが必要な場合は空間への影響もあるので早めの検討が必要です。



間仕切り内配管とボックス

先輩アドバイス

- ・間仕切りの下地ピッチ・補強位置によりボックス設置ができない場所があります。
スイッチ・コンセントが並ぶところは特に高さ、間隔に注意し次工程前に必ず確認を行うようにします。
- ・間仕切り内配管にて、指定された位置に確実にボックスを固定することが重要です。
器具付け工事にて大きく影響するので寸法間違いに注意が必要です。

チェック項目

- ボックスの取付け位置は図面通りですか。
- 支持・固定状況は問題ありませんか。
- 防火区画の確認を行いましたか。
- 間仕切り補強の打合せを行いましたか。

失敗すると...

- ・仕上工事の終了した壁面を解体し、やり直しなど大きな手戻り工事が発生します。
竣工間際の工程変更は多大な影響が発生します。
- ・支持固定をしないと、ちょっとした振動でも軽量鉄骨と電線管がぶつかり騒音が発生します。
また、ケーブルが傷つき、漏電が発生する可能性があります。

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化	
		○	—	○	—	—	—	—	○	○
備考	参考文献：						制定	2019年3月1日		
	参考メーカー：						改訂			